

原資料を生かすこと

四国災害アーカイブスは、四国の災害に関する文献資料等を収集、整理して、一定の様式で災害情報を皆さんに提供するものです。このため、災害情報の整理・提供にあたっては、できるだけ元になっている文献資料等（原資料）を生かすことを原則としています。

資料整理をずっと続けていると、他の資料を参照して執筆されているものの中には転記ミスや微妙な書きかえもありますし、出典を記載していないもの、他人の文章を転用しているものがあることも分かってきます。その一方で、一つの災害情報を明らかにするために、各種の資料を比較検討したり、現地調査や聞き取り調査を行うなど相当な努力をされている資料もあります。また、災害の事実を伝えるだけではなく、災害から何を学ぶべきか、地域を守るために何をすべきかなどを伝えようとしている資料もあります。多くの資料には原著者の努力や思いが込められていますので、できるだけ原資料の内容を生かすことはアーカイブスを通じて過去の資料を利用させてもらう者の務めだと考えています。

しかし、原資料に書かれている情報をできるだけアーカイブスに掲載することにより、利用者には留意していただきたいことも出てきます。第一に、ある地域のある災害についてアーカイブスで検索すると、同様の内容の情報がたくさん表示されることがあります。これは、同じ資料を参考にして災害情報を記述している資料が多いためです。利用者にとっては、同種の情報が大量に提供されるため煩わしい面もあるかも知れませんが、複数の情報があることにより情報が補完されることもあります。例えば、ある情報では災害種類、災害月、災害場所だけしか提供されていないとしても、同種の他の複数の情報から災害の日や時間、被害状況の詳細などが提供されることによって、災害情報の全体像を知ることができるといった利点もあると考えられます。

第二に、ある地域の同じ災害であっても、アーカイブスで検索すると、ある情報では負傷者 10 人であるのに対して、別の情報では負傷者 20 人などとなっており、被害者数や被害の程度などが異なる情報内容が提供されることがあります。これは、被害状況を把握する時点や主体が異なることなどによるものです。災害や被害の状況をどの時点で把握するかによって、数値や記述内容は異なりますし、被害状況が国、県、市町村、警察、報道機関など、どの主体によって把握されているのかによっても情報内容は異なります。アーカイブスでは出典が記されている情報については、情報の元の出所を明記するようにしていますので、出典を確認の上で利用していただきたいと考えます。

第三に、個々の情報が並列的に表示されるということです。アーカイブスでは災害発生日や単位、台風の名称など明らかに間違っている情報は修正し、不確かな情報は提供しないように努めていますが、原資料を生かすという方針のもと、できるだけ原資料の情報を掲載することを基本にしています。アーカイブスで提供する個々の情報について、これは疑わしい、誇張表現である、傍証なしなどの注釈を記載するとすれば、利用者は信頼性が高い情報と低い情報などと判断することができますが、アーカイブスでは信頼性の区別なく、並列的に表示しています。情報の利用は利用者の判断に任されることとなりますので、利用にあたっては、出典を確認するだけでなく、原資料をご覧の上で判断されることをおすすめします。